

(13) 防災・安全教育研究会

会 長 門田 典弘 (東中筋小)
副会長 太宰 三和 (八束小)
事務局 尾崎 紗矢 (中村南小)

1. 研究主題 「僕も君も助かる、実践的防災・安全教育」

2. 研究経過

実施年月日	研 究 の あ ら ま し	会 場	備 考
令和4年 5月6日(金)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	
8月5日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 ・防災施設見学 講師 佐竹 孝一郎・山下 将臣 (四万十市地震防災課) ・講話 「地域の自然災害要因と防災気象情報について」 講師 土井 恵治 (土佐清水ジオパーク 専門員)	・防災施設見学 下田地区防災拠点基地 山路地区津波避難タワー ・講話 中村南小学校	25名 参加

3. 夏季研修会の日程

【日 時】 令和4年8月5日(金) 8:45～11:40

【会 場】 ・防災施設見学
下田地区防災拠点基地、山路地区津波避難タワー
・講話
中村南小学校

【日 程】 開会行事 (8:45～8:50)
移動 (8:50～9:00)
防災施設見学 (9:00～10:15)
移動 (10:15～10:25)
講話 (10:30～11:30)
閉会行事 (11:30～11:40)

4. 研修内容

今年度の夏季研修会では、昨年度に引き続き「防災施設の見学」と併せて、自然災害全般の話を聞きたいとの会員の要望もあり、「地域の自然災害要因と防災気象情報について」をテーマとした講話の2点について研修を行うことになった。

(1) 防災施設見学

講師：佐竹 孝一郎・山下 将臣 (四万十市地震防災課)

①下田地区防災拠点基地

南海地震等により発生する津波から、市民の生命と身体の安全を守るとともに、命をつなぐための防災活動拠点として設置された。災害発生時の救助・復旧活動拠点となっており、平常時は、防災・避難訓練での使用や防災関係の各種行事に使用している。当日は、地震が起きた際の防災 BOX の開閉の仕方や施設内の備蓄品等の説明、さらに、耐震性貯水槽・自家発電施設・浄水装置等の説明も受けた。



②山路地区津波避難タワー

津波避難タワーは、高さ 16.4m、収容人数 40 人程度である。近接する老人福祉入所者の避難を考慮し、階段に加えて手巻き式ゴンドラが設備されていた。ゴンドラ収容人数 5～7 人、10m の巻き上げ時間は 1～2 分との説明を受けた。実際に参加者 5・6 人をゴンドラに乗せ、体験してみたが、不安にさせるような振動もなく、最上部まで上昇させることができた。

(2) 講話「地域の自然災害要因と防災気象情報について」

講師：土井 恵治（土佐清水ジオパーク専門員）

①自然災害の要因

- ・気象…温暖な黒潮が要因となり、地形とも密接に関連している。（急峻な四国山地）
- ・地震…プレートのせめぎあい。（南海トラフ、日向灘、豊後水道、伊予灘）
- ・地形、地質…海岸、河岸低地、急峻な山間地。（急こう配な河川）
- ・人々の暮らし…生活の利便性と脆弱性

②大雨

四万十市に影響を与えた激しい気象

- ・高知県西南豪雨（2001 年 9 月 6 日）、2014 年 6 月 4 日から 5 日にかけての高知県西部の大雨、2016 年台風第 16 号による大雨、平成 30 年 7 月豪雨（2018 年 6 月 28 日～7 月 8 日）等

◎「キキクル（危険度分布）」（気象庁）の活用

雨雲の状況、浸水害、土砂災害、洪水害等に対する危険度分布。

◎積乱雲の近づく兆しを見逃さない

激しい雨と雷が発生するおそれがある。

③地震・津波に関する情報とその対応

- ・緊急地震速報の利用

「地震の揺れを感じなくても緊急地震速報を見開きしたら…」

「緊急地震速報がなくても揺れを感じたら…」

→まわりの人にも声をかけながら、あわてずまず身の安全を！！

- ・津波フラッグ

津波フラッグは避難の合図

- ・津波警報

大津波警報… 5メートル以上（巨大）

津波警報… 1 m～ 3 m以内（高い）

→沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全でより高い場所へ避難。

津波注意報… 20 cm以上 1 m以下

→海の中にいる人は、ただちに海から上がって海岸から離れる。

5. 参加者の感想（一部抜粋）

- ・実際に避難施設や、避難タワーを見学することができ、貴重な経験になりました。各地区の状況に合わせた避難体制がとられていることを学ぶことができました。

- ・四万十市の防災対策について、実際に施設を見学しながら学ぶことができました。国や県から公開されている情報を活用しながら、自然災害対策に繋げていきたいと感じました。



- ・山路地区津波避難タワーの近くにあるゴンドラを、実際に動かしてみることができてよかったです。設置されていることは知っていても、実際に動かすことができないと命を救うことができないため、体験することは大切なことだと感じました。講話では、四万十市の幅広い災害について話を聞くことができてよかったです。その土地の特徴によって起きる災害にも違いがあるため、自分たちの町ではどのような対策をとっておく必要があるのか、考え直すきっかけになりました。

- ・実際に備蓄倉庫や避難するための設備を具体的な説明を受けながらの見学・体験することで災害時の対策が整っていることを知ることができ良かった。また幡多地域の自然災害について、具体的な資料を見ながら、豪雨災害が起こるときの特徴や地震災害についてなど、専門家からの講話を聴くことができ、今後の事前対策に役立てていけるヒントを学ぶことができました。

- ・市内の備蓄倉庫や設備について知ることができました。ゴンドラも実際に体験することができてよかったです。後半の講話では、資料を見ながら幡多地域の自然災害や災害危険度の高まりを確認できるシステムについて知ることができました。